



～年間聖句～「だから、キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。」コリントの信徒への手紙Ⅱ 5章17節

「自分らしさ」を更新する

人が「自分らしさ」を形成していく上で、中高生年代の思春期は、重要な時期と言えます。児童期までは、親からコントロールされる一方、その保護下において依存しています。ところが、思春期になると、親からコントロールされることを窮屈に感じて反抗するようになります。動かされているだけじゃつまらないと感じ、親の考えを基準にするのではなく、自分で価値観を組み替えたくくなります。

この時期には、認知能力のうち「抽象的なもの」を認知する能力が飛躍的に向上します。それまでは「具体的なもの」だけを意識しているのですが、「自分」という抽象的なものをどう捉えるかという視点が強烈に出てきます。すると、他人と自分を比べて、落ち込んだり、悩んだり、自己嫌悪に陥ることもあります。

抽象的な思考ができるようになると、友だちに対する要求も変わってきます。それまでは、ただサッカーやゲームなどで一緒に遊べればよかったけれど、内面的な共有や共感を友だちに求めるようになります。それゆえ、友だち関係で悩むようにもなるのです。

思春期に自分と人を比べたり、人が自分をどう見ているのかが気になったりするのには、「自分で自分を知りたいから」なのです。この悩みは、まさに「自分らしさ」を見つけようとする産みの苦しみがありません。でも、どこかを探して見つかるようなものでもありません。思春期にもがいているうちに、ふと「自分ってこんな人」と気付くのが「自分らしさ」なのです。

「自分探し」という言葉をよく耳にします。意外とそれは、「本当の自分はこんな人じゃない」など言い訳に使われがちな面もあります。以前、「自分探しは意味がない。人生はたし算だ」ということをみなさんに話したことがあります。自分を知るには、とにかく行動することが大事です。行動してみて初めてわかることがたくさんあるからです。

人間関係も同じです。人と関わることで、他人と自分の共通点や違う点がわかり、違うからこそ「自分はこうなんだ」と気付くことができます。人とのつながりの中で、葛藤したり、悩んだりすることも自分をつくる上では、必要なことなのです。

時には相手によって、自分の知らない自分が引き出されることもあります。だから、いろいろな人と関わっていくことが大切です。その連続が成長につながります。ということは、「自分らしさ」は成長するたびに更新されることとなります。

生徒のみなさんにわかってもらいたいことは、この思春期には、人と関わることで何かをつかんだり、何か気付いたりするということです。「成長はたし算」なのです。そして、みなさんは、「One&Only」なのです。

(学校長 重枝 一郎)

夏服着用について ー移行期間後、5月16日(土)から完全移行

【移行期間(予定)】 5月 7日(木)～15日(金) 夏服または冬服のどちらでも着用できる。

【一斉着用】 5月16日(土)「創立記念日」 この日より夏服のみ着用とする。

新入生の皆さんにとって初めての創立記念日は、メイクイーン・メイポールダンス行事が楽しみですね。女学院生が空色のギンガムのスカート姿で軽やかに舞うメイポールダンスは、福岡の街に初夏の訪れを告げる風物詩として多くの人々に親しまれています。多くの先輩方が誇りを持って着用したこの制服を、みなさんも美しく着こなしてほしいと思います。上級生のみなさんはスカート丈を合わせるなどの準備をしておいてください。